



森のなかま

2013年11月号
NO. 67 (継続212号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

『NPO法人かながわ森林インストラクターの会』は、
こんな活動を行なっています！！

森林づくり



植樹や下草刈り、枝打ち、間伐などの作業指導を行うとともに、森の手入れの意義や森林の機能についての解説を行います。また、豊かな森林づくりのための整備活動を行います。

自然観察



森を探訪しながら、森林の機能やそこに生息する生き物の生態および人との関わりについて解説し、森の楽しみ方を案内します。県内各地で自然観察会や「森林探訪」を開催しています。

森林文化



森からのめぐみを使った木工・クラフト・紙すきなどの製作指導や中山間地域に培われてきた伝承文化、民俗、自然との共生の知恵を学ぶお手伝いをします。

普及啓発



森林の大切さを県民に伝えるとともに、市町村、学校、企業、団体等の森林・林業に関する各種イベントや学習講習などの開催についての企画や推進の支援をします。

森林癒し

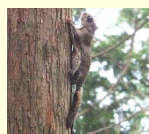


森の中で五感を使った散策などを通し、森林が人の心や身体に及ぼす働きを体験できます。心身の疲れを癒し、健康でこころ豊かな生活ができるようお手伝いします。

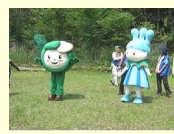
やどりき事業



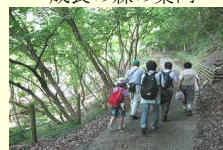
成長の森の案内



モモンガ



水源林のつどい



森の案内

会の活動拠点。529ヘクタールのやどりき水源林をベースに森林整備、自然観察、森林癒し、森林文化などの活動を行っています。水源林を巡る「森の案内人」や「成長の森の案内人」を行っています。

緑の募金 支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目／NPO法人で初委嘱されています。

森林部会 『人工林整備技術研修 間伐』

愛甲郡清川村煤ヶ谷字堤川(宮が瀬湖入口/土山峠) 9月29日(日) 9:30~15:30



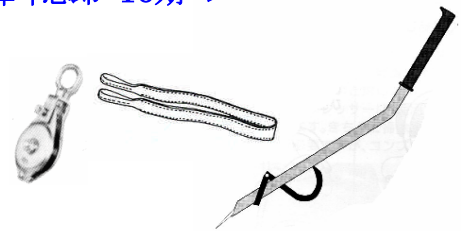
< 森林部会 大澤斗志郎 10期 >

オリエンテーションで次の3項目の研修テーマが説明された。

- ① 間伐作業の実践を重ね、自らの間伐技量の向上を図る。
- ② 指導者としての立ち居振る舞い・指導法を学ぶ。
- ③ 新しい道具(滑車+スリング、フェリングレバー)の習熟をする。

8月25日の『13期生養成講座・間伐実習』が雨の為、室内講義に変わったのを受け、その講座の皆さんにも声をかけて有志6名が参加、総勢28名となる。4~5名+講師1名を1班とし、5つの班を編成。

現場はガレが多く、足場確保に少々難渋した。いきおい切りやすい高さで伐る傾向になったのは止むを得なかった。



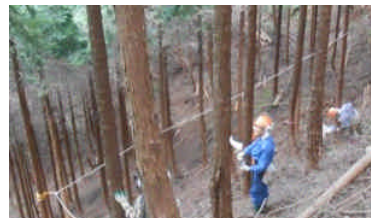
滑車、スリング、フェリングレバー



いざ現場へ



伐倒方向は



滑車、スリング、ロープで予め懸り木等の対策



伐り開始

インストラクター役/伐倒役がペアを組み、まず選木と伐倒方向を決める。伐倒役がその理由を述べ、異見がなければロープを架け、伐倒方向に滑車をスリングでセットする。

受け口を切り始める。受け口の方の正確を期す為の“方向確認プレート”を、自分なりに工夫作成し、持参したM氏、その心構えに感心する。一般参加者指導には、このような小道具を使ってビジュアルに説明することが、理解を深めさせるのに極めて有効であることは言を俟(ま)たない。

架けたロープは、引き倒す為のものではなく、あくまでも伐倒時の誘導と懸り木対応の為であることを理解しつつも、ロープに助けられる場面がほとんどであった。

伐倒後、全員が伐根のところに集まり、講師からその解説を聞く。受け口の向き、水平切りと追い口の平行状態、そしてツルの形状・厚み等。伐根を見直すことにより、いかに学ぶことが多いかを全員が納得した。単に“うまく倒せた、良かった”のみで終わらせないのが今回の研修！

インストラクター役・伐倒役を、全員がそれぞれの役割を交代し、全員が自分の納得のいく方法で1本ずつ伐倒した。

今年から《県民参加の森林づくり》でも、《ネットワーク活動》でも順次使われるようになった[滑車+スリング]、[フェリングレバー]も活用した。特にフェリングレバーの“木回し機能”とその実効性には、初めて経験する者も多く、収穫だったようだ。

予定の研修時刻も過ぎ、道具・荷物を背負って下山の為歩き始めたところに、本日の統括講師佐藤部会長の見廻り。『伐根が高すぎる』とダメ出し。1班と2班、再び荷を下ろし、地ぎわから20cm位の高さで伐りもどし。研修とはいえ、これはこたえた！！



(写真:佐藤武晴氏 5期、西出健一氏 12期)

《参考事項》

講 師：佐藤武晴氏⑤、滝澤洋子氏⑤、戸谷和男氏⑥、福島孝弘氏⑨、松永廣氏⑪

参加者：井出①、菊地①、伊藤⑦、有坂⑧、内野⑨、水津⑨、辻村⑨、宮下⑩、松山⑩、酒井⑩、大澤⑩、柴⑪、石川⑫、宮下⑫、門沢⑫、西出⑫、渡辺(敏)⑫

(13期養成講座生6名) 焼尾徹、内田啓太、溝田幸和、武井直人、宇田川祐美恵、古館信生

普及啓発部会 『研修 シュロバッタ作り、水源涵養実験、雨時バージョン対応 等』

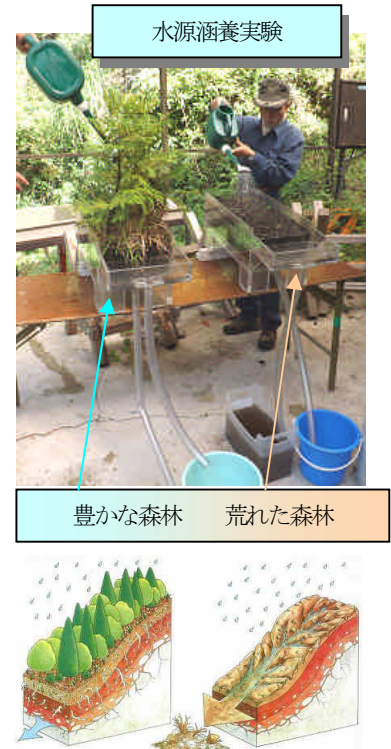
やどりき水源林集会棟他 9月21日(土) 9:30~15:15

< 普及啓発部 加藤 久雄 12期 >

内容は学校関係でのネットワーク活動他での技術向上のために水源涵養実験、シュロバッタ作り、雨天時対応のインスト(指導)内容を修得する目的の研修会でした。

午前の部

- 10:20 足立部会長よりスケジュールの説明。
- 10:25 森本さんより資料「私たちのくらしと丹沢」の説明と活用の仕方。
- 10:30 足立部会長による水源涵養実験のための説明。(資料「実験の進め方」と「実験のノート」)
- 11:00 水源涵養実験の開始と実験ノートへの結果の記入と考察。
今回は、鶴見区汐入小学校の要望で9/26に「かながわ環境教室」の出前授業で行うリハーサルも兼ねました。今後、二回、三回と水源涵養実験授業を小学生と一緒に進めていく中で、「森のはたらき」が実感できる理科授業を目指します。
- 11:40 井出さんより「森林クイズ」シートの説明。趣旨は雨天時対応のゲーム修得で「森の中でのゲーム(木の葉のかした、私は何? 私はだれ? 育林ゲーム、ノアの箱舟、コウモリとガ)」、「森林クイズ」です。



午後の部

- 12:20 森本さんによる「シュロバッタ(参加者全員が3個以上を作り個性ある作品の完成となりました)」と「ロケットラワン」の製作・指導。



- 14:20 井出さん、足立部会長によるネイチャーゲーム「私は誰でしょう」、「葉と実」のカルタの練習。
- 14:35 足立部会長パンフレット「森は水のふるさと」を教材としてどのように活用すれば効果を得、かつ楽しく理解させることができるかの内容でした。ポイントは、水道水はいつでも使えて、綺麗であることを満たすための浄水場、堰、ダムの役割を理解した。さらに、私たちが飲んでいる水道水のルート(経路)&ソース(源)の説明も受けました。
- 15:15 小人数で和気あいあいの研修完了。研修結果は、今後の諸活動に役立つ有益な研修会でした。個人的には当面の汐入小出前授業への良い予習となりました。また年に一回は研修会を開催したい旨の発表もされました。

参加者: 足立④、井出①、菊地①、堀江④、森本⑤、海野⑩、杉崎⑩、松本⑪、加藤(久)⑫ (写真: 広報 松本)

私の認識

野鳥その115

高橋 恒通

今回の海ガモは冬鳥で、東北地方以北の太平洋側では少数が留鳥のシノリガモ(漢和名:晨鴨、英名:Harlequin Duck、体長L=43 cm)です。

いつもの通り成鳥♂の体色からご案内致します。英名の“ハーレクイン ダック”とは“斑^{マダラ}色の鴨”と直訳される通り、白色、青灰色、茶褐色、そして黒色が複雑な大模様の斑な全身と鉛色の嘴を持っております。その中で種を特定する覚え易いポイントは、黒色の東央線、顔前面の白色そして耳羽後方の円形白色斑と縦長の白斑だと私は認識しています。これに対し成鳥♀は、暗褐色の全身だが、頬に無花果形の白斑と耳羽後方の円形白色斑、そして黒っぽい嘴が特徴です。



シノリガモの我国での棲息環境は、沿岸の岩礁地帯を好み、あまり沖合にも出ず、波静かな内湾にも入らない様です。

行動様式は、岩礁の岩の上で休息したり、浅い海に潜って貝類、甲殻類や小魚などを採食します。

私が最初にシノリガモを観たのは、十数年前の冬、ドライブの途中、葉山は長者ヶ崎の沖でした。その次が四月末に大磯の照ヶ崎にアオバトを観に行った時、アオバトには逢えず、代りにシノリガモが出たのです。どちらのケースも何故か成鳥♂1羽でした。

こゝ暫らくシノリガモを観ていませんので、そろそろご対面したいと願っております。

続いての海ガモは冬鳥のホオジロガモ(漢和名:頬白鴨、英名:Common Goldeneye、体長L=45 cm)です。

成鳥♂の体色は、頭部全体と背から尾羽にかけて黒色ですが、光の当り方で金属光沢の暗緑色に見えます。胸前から腹、大中小の雨覆と次列風切羽が白色で、嘴は黒色なので遠くから見ると黒白2色のカモと思えます。但し、漢和名の通り、頬の部分によく目立つ丸い白

斑があります。その白斑は前記のシノリガモのそれよりずっと大きく、シジュウカラの頬の白斑に通じる様に私は認識しています。

そして、英名の“ゴールデンアイ”の通り虹彩が金色ですから実に覚え易いカモです。



我が国での棲息環境は、九州以北の湖沼、河口、内湾そして港などです。

採食は潜水して貝類、甲殻類、小魚など動物質のものを摂取します。

ホオジロガモの世界地図上の分布は、北米大陸、ユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖していますので、我国などで越冬しますが、当県では観察例の少ない海ガモです。

毎年1月に日本野鳥の会主催の“ガンカモ一斉調査”の結果でも2011年に♂2、♀2計4羽で、12年13年にはゼロです。因みに前記のシノリガモはいずれの年もゼロでした。

私がホオジロガモを観察したのは、記憶が正しければ、平成5~6年頃、日本野鳥の会沼津支部の探鳥会で、富士川の下流域の緩やかな流れの場所でした。

その時は数羽の小群をフィールドスコープの中に観たのが最初で最後でした。富士川は川幅が広く、流れの丁度真ん中辺りでしたので、スコープの中でも小さく、然し♂の頬白のマークは確認できました。その時、偶然か対岸からは静岡支部のパーティがやはりホオジロガモを観ていました。

〈参考資料〉

◎日本の野鳥, 山溪カラー名鑑, 編・高野伸二, 解説・浜口哲一他3名, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, 山溪ハンディ図鑑7, 写真・解説/叶内拓哉, 分布図・解説協力/安部直哉, 解説(鳴声)/上田秀雄, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, フィールドガイド1, 竹下信雄著, 小学館

◎ (イラスト) 広報 大塚 晴子

活動短信



今回の掲載は
8/21～9/13です。
投稿頂いた中には、紙面
の都合上、次号以降の掲
載になるものもあります。
予めご了承下さい。

◆ 県民参加の森林づくり (下刈り)

- 日 8月21日(水)8:30～13:45、晴時々曇り
場 箱根町仙石原 箱根イタリー水源林
参 募集参加者50名(申込者59名)
財 鳥海様、古館様 看 青木様
イ L松山⑩、大道⑥、齋藤武久⑥、白畑⑦、
黒沢⑧、斉藤彰秀⑧、内野⑨、水津⑨、
海野⑩、橋本⑩、東昭一⑫

朝方曇り空で雷雨が懸念されたが、8時40分、小田原を出る頃は猛暑復活。箱根仙石原イタリー水源林には予定より早く9時30分着。オリエンテーションでは、鎌の取り扱い方や暑さ対策、ハチ刺されなどの注意を喚起し、10時から移動・下刈作業開始。

参加者50名の内、高校生男女8名と先生1名が総合学習のため、活動に参加。生徒はそれぞれ5班に別れて、同じ班の参加者から鎌の使い方や刈り方などを教えてもらいながら和気藹々として下刈を楽しんでいた。暑さ厳しいこの時期、手弁当でボランティアに励む大人と一緒に汗を流したことで、意義ある総合学習ができたのではと思う。

11時50分、少し刈り残したが作業を終了。集合場所に戻り、道具を片付けて昼食。事故・怪けなし。但し、ハチ刺され2名と作業の終りごろ軽い熱中症1名でたが、何れも青木看護師による早めの処置で大事に至らなかった。

12時50分、全員気持ちよくバスで帰路に、13時45分、小田原駅で解散。

(記 松山隆治 10期)

◆ 神奈川県水道記念館

水源林の観察会(自然観察&水棲生物観察)

- 日 8月22日(土)9:00～15:30、晴時々曇り
場 やどりき水源林
スタッフ 神奈川県水道記念館・館長他5名
参 30名(大人11名・子供19名)
イ L高橋③、落合③、渡辺③

水源林を取り巻く環境について知識を深める。

早朝から暑い日であったが、親子共に楽しみにしていた様子が伺えました。

小田急線本厚木駅南口、第一伊藤ビル前を予定通り9:00に出発、東名を經由9:50やどりき水源林に到着、集会棟前広場で班編成(3班)、オリエンテーションの後、自然観察のため林道コースへ10:00出発、初めて聞く内容が多かった様子、“そうなんだ”との声が多く聞かれたと同時に真剣な眼差し、期待を裏切らないよう説明内容を吟味しながらの観察でした。

広場に戻り感想を伺って午前の観察は終了しました。楽しい昼食後、子供達は河原で水遊びを始めた為と天候を考慮して、班毎に広場に集合、安全確保のための注意事項等の後、水生生物の採集、楽しそうな笑顔と歓声、班毎に観察、子供たちひとり一人が採集した棲物を自慢げに話す、“ありがとう”の気持ちを表現しながら川に放す、楽しかった思い出を胸に14:00終了しました。14:30バスはやどりき水源林を後にしました。疲れたのでしょうか心地よさそうな眠りにつく子供たちが多く見受けられました。

駅近くに15:30頃到着、参加者全員が家路に向かう、15:30には主催者側とインストラクター全員で無事終了確認し解散しました。

(記 渡辺 孝 3期)

◆ 県民参加、自然環境保全活動 ササ刈り払い

- 日 8月28日(水)8:00～14:00、晴
場 足柄下郡箱根町仙石原(小塚山)
参 募集参加者25名
財 瀬戸専務、鳥海様、壺崎様、石川様 看 青木様
地元 ポーラ美術館 伊藤専務、
南足柄森林組合2名(用具)
イ L村井⑨、小野⑦、白畑⑦、渡部⑦、有坂⑧、
小沢⑨、青木⑩、杉崎⑩、西出⑫、研石原⑧

小田原駅西口をマイクロバス2台で定刻に出発し、予定よりも早くポーラ美術館に到着した。開会式では、財団瀬戸専務の挨拶の後、ポーラ美術館伊藤専務より、箱根の森を豊かにするためにはササ刈り払いは重要かつ必須の作業であり、是非協力をお願いしたい旨の話があった。リーダーより作業に関する注意事項の伝達、準備体操を行った後、用具を持って現場に向かった。

4班に分かれて作業を開始したが、現場は背丈の倍

近くもあるハコネザサが密集し、約2m間隔で横1列になって30分間奮闘して2m程度の進行であった。それでも、10時過ぎから約1時間30分の作業で、幅7～80mで10m近く刈る事ができた。作業後、現場に点在する高さ15m以上もあるヒメシャラが目立つ存在になり、全員でその雄姿を満喫した。

地際を見ての作業のために、卵5個が入った小鳥の巣の下も刈り取ってしまうハプニングもあったが、ヒヤリハットもなく作業は無事終了した。

昼食後、樹木の種子に関するリーダーの講話があり、再びバスに乗って、予定よりも若干早く、小田原駅西口で解散となった。

(記 西出健一 12期)

◆ 三菱重工業株式会社

<午前> ①癒し体験コース、②間伐体験コース

<午後> ①丸太切り(コースターづくり)

②水生生物観察・川遊び

日 9月7日(土) 10:00～14:45, 曇り

場 やどりき水源林

参 社員とその家族、46人(大人27人、乳幼児19人)

県 後藤様

イ L伊藤⑦、高崎④、若林⑦、小沢⑨、

時田⑩、福島⑪、西出⑫

○ 雨模様が少し心配な秋空を見ながら、予定通りに10時より開会式。インストラクターの紹介を受け、“間伐班”は大人8名、子供9名の参加者を3班に分け、本日の間伐エリアへ出発。森の作業のサイクル(植樹、下草刈り、枝打ち、間伐)等の説明をして、間伐作業時の注意や伐倒方法についてお話。小学生の子供も含め、間伐体験は初めて、立地条件が馬の背の様な場所の為伐倒方向が限られてしまう条件の中、参加者全員が交互にノコの作業を経験。

枝払い、玉切り作業後、午後のプログラムに有るコースター作り用として2m～3mの檜材を広場まで運ぶ。木が倒れた時のウオ～！の叫び声の感動と共に本日の作業は終了。全員無事に下山した。

(間伐体験コース/ 記 小沢章男 ⑨)

○ 癒しプログラムは初めての試みでしたが、大変参加者の皆様に喜ばれました。ハンモック体験は大好評で、母と2歳児のご家族も一緒にゆらゆらと気持ち良さそうでした。

槐の森ではマットに寝そべり木々の揺らぎや、自然との一体感を堪能して頂き、クロモジやサンショウの清涼感も味わい、呼吸法の1つとして緑の山にヤッホーと叫んでみました。子ども達は広場に帰ってもヤッホーが止まりませんでした。終了後に「森の香りのしおり」をお渡しし癒しの相乗効果を実感して頂けると素晴らしいなと思いました。

午後の水生生物観察では、当初7人体制の予定が4人体制での実施となり、乳幼児が多かった為、危険予知にかなり気を使い、皆大変疲れました。インストラクターの人数等に課題が残りましたが、喜んで頂けて無事終了し安堵のため息が……。

(癒し体験コース、水生生物観察

／記 時田愉季子⑩)



◆ 大井町立上大井小学校

林間学校 丸太切り体験

日 9月11日(水) 13:00～15:00、晴れ

場 足柄ふれあいの村、そよ風広場

参 小学5年生48名、教師5名

財 古館様

イ L酒井⑩、斉藤⑥、石原⑧、西出⑫

朝から降り続いていた雨は活動開始時刻に合わせるようにピタリと止んで急に蒸し暑くなってきた。約束のそよ風広場に行くと上大井小学校の子供達を楽しそうにお弁当を食べていた。私達も急いで食事を済ませ打ち合わせと丸太切りの準備を行った。

酒井リーダーのはじまりのお話の後、4班に分かれて丸太切りを体験。丸太はブラッシュアップ研修で切り出された間伐材クヌギ・コナラ・サクラ・スギ・ヒノキ・マユミ・ミズナラを使用した。

全員が丸太切りを体験した後、各インストラクターが「森の大切さ」を伝えることになっていた。どの班も順調に丸太切りを終え、周辺の自然観察をしながら「森の大切さ」をインストラクターがそれぞれ得意な方法で伝え、子供達も笑顔で応えていた。

しかし、私の班だけは様子が違っていた。丸太切りに時間がかかり、安全確保と道具の片づけが精一杯で「森の大切さ」を伝える時間が足りなくなってしまったのだ。子供達と一緒に一番太いヒノキの丸太を、一番先に“ゲット”して得意になっていたがこれが間違いの素だった。私の経験不足から子供達に十分に「森の大切さ・森の楽しさ」を伝えることができなかったのは本当に残念だった。今後は活動に参加する機会を増やし経験を重ねて、一人でも多くの子供達に「森の大切さ・森の楽しさ」を伝えられるように努力していきたいと思う。

(記 石原和美 8期)

◆ 三保小学校 七沢宿泊研修

大山登山

- [日] 9月12日(木) 9:30～15:20、曇り
 [場] 大山(下社～山頂 本社～見晴台～下社)
 [参] 小学5年生174名、教師9名、補助の大学生数名
 [イ] L 野田⑧、足立④、高崎④、宮本④、
 安部⑤、鈴木⑤、渡辺⑦、小沢⑨、村井⑨、
 小林⑩、杉崎⑩、大塚⑪、中村⑪、松本⑪、
 西出⑫、門沢⑫

下見時の暑さが落ち着き登山日和の天候になったがそれでも暑い。児童数174名と多く1台のケーブルカーに乗ることが出来ないため、全員で予定のオリエンテーションを班ごとに行い、次のケーブルカーを待たずに順次出発。

最初は長い階段、そのあとは壊れた石段の急坂。元気な子と弱い子の差がすぐに出る。男の子を前にしたり、女の子を前にしたりするも、速い子、遅い子にすぐに分かれてしまう。今日はグループ活動で全員が協力しての登山ですよといっても元気な子供たちには全く関係ない。そこで、遅れている子供のリックを持ってあげようとしたら、元気な子供二人が協力してくれた。お蔭で全員が遅れることなく頂上に辿り着く事ができた。

帰りは逆でのぼり元気だった子供が遅れ始める結果になった。膝が笑い始めた子も頑張りました。歩くことに専念したため自然の話は少なくなったが、疲れを取るために嗅いでもらったマツカゼソウの匂いは記憶に残った模様。口では楽しかったといていたが、本音はしんどかったはず。アキアカネが沢山飛んでいた大山登山の印象はその後どのようになるのでしょうか。

(記 野田 重雄 8期)

◆ 横浜市立善部小学校

自然観察

- [日] 9月13日(金) 10:00～14:30、晴れ
 [場] 県立21世紀の森 天然の森～セントラル広場
 [参] 小学5年生61名、教師9名、カメラマン1名、他1名
 [イ] L 村井⑨、足立④、小沢⑨、杉崎⑩、
 赤崎⑫、永松⑫

学校の要望は自然とのふれあい。相鉄沿線の善部小学校周辺と足柄との違いを子供達に味あわせたい。また、参加インストラクターの得意技を紹介してほしい、それぞれの得意技インストラクターに子供達が集まり班を作ると言う他の学校にない注文も入り少々面食らったが、ユニークな計らいに子供達も私達も興味津々。

下見時には先生から子供たちにお土産を与えてほしいと言う要望には皆かなり抵抗を感じた。ご存知の通り私たちの会では全員に渡せないお土産は渡さないのが鉄則です。学校からの報告書によると昨年も先生の要望には応えてなかったようだ。(後で分かった事だが、クスサンのまゆやホオノキの実、木の実、草笛などで良かったようだ。)それはともかくとして、第9を英語、ドイツ語、日本語で子供達と合唱した班や、インストラクターの説明に図鑑で確認する博士みたいな児童もいたり、全般に素直で熱心な児童が多く私たちも楽しい一日が過ごせました。ヒヤリハットもなく無事終了。

(記 村井正孝 9期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水源環境の
保全・再生をめざして



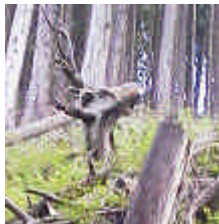
略語の説明

- [日]: 日付、 [場]: 場所、 [参]: 参加者、
 [県]: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)
 [財]: ((公財)かながわトラストみどり財団) [看]: 看護師
 [スタッフ] 例 小田原市森林組合・XX様
 例 川崎市公園緑地協会・XX様
 [イ]: インストラクター (○数字: 期) [研]: 研修梓

やどりき水源林 ミニガイド

10月のトピックス

鹿に良く似た木の根がありました。



(X パートナー林内)

11月の水源林

本格的な秋です。山は色づき、気持ちのいい散歩ができます。自然を満喫しましょう。

「森の案内人」情報

案内人も張り切ってお待ちしています!!

●実施時間: 毎週土曜・日曜・

午前10時・午後1時、1~2時間程度

●集 合: 水源林入口ゲート前

●内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ: (公財)かながわトラス
みどり財団 TEL: 045-412-2255
携帯: 090-8580-5348
FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

●E-mail: midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

森のふれあい館

秋の企画展 10月1日~11月24日

『木の実・草の実ウォッチング』

特別展 10月1日~12月31日

『ワイルドライフアート展』

神奈川県足柄下郡箱根町箱根 381-4

森のふれあい館 9時~16時半

入館料 大人650円

平日中学生650円、小学生400円

土日祝日の小中学生は無料

問い合わせ先: 森のふれあい館 0460-83-6006

関連サイト: <http://www.hakone.or.jp/morifure>

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: matsutam@jcom.home.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel: 090-6150-6173

Mail: s_akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutam@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

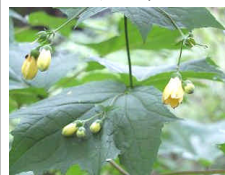
Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

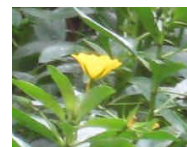
お詫びと訂正

10月号の自然観察研修会の掲載写真(2ページ目)に間違いがありましたので訂正をお願いするとともにお詫び申し上げます。キレンゲショウマと表記のものはミズキンバイでした。正しくは下写真です。

キレンゲショウマ



ミズキンバイ



編集後記

★同期 12 期の会で初のイベント出展のお手伝いをしました。思いがけない盛況ぶりに手応えを感じました。

(赤崎)

★立て続けの台風襲来でしたが、森の生き物達はどのように過ごしたのでしょうか?

これから森の模様替え、紅葉が楽しみです。

(水口)

★秋に成っても異常に暑い日が続くかと思えば超目玉のハッキリした台風が発生、襲ってくる。

とかく人間が思うように支配しているつもりが自然界の力には及ばず、原子力はどうなるのか!

(小沢)

★季節はずれの台風の影響で大荒れとなり伊豆大島の人達は大変です。やどりきも樹木が倒れたようです。丹沢山系はガレの多い山で根付きが浅く木が倒れやすいようです。

(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保

事務局: 竹島 明

広報部: 小沢章男

水口俊則

鈴木 朗

鈴木松弘

大塚晴子

加藤愛子

赤崎さほり

支援 川森健司

谷川 克

一時休み 真貝 勝

徳岡達郎

まつだキラキラフェスタ 11月23日~12月25日



山や散策、ボランティア活動の
お帰りにお越しくださいませ!!

山麓のオアシス ②4

こまち

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店

・点灯時間

11/22~12/19 17時~21時

12/20~12/25 17時~22時

・場所

西平畑公園(松田山ハーブ館)

・問い合わせ先

Tel 0465-85-1177 松田ハーブガーデン

Tel 0465-83-1228 松田町役場環境経済課